

ロボット介護機器 導入施設

緑の牧場学園

【施設概要】

運営法人: 社会福祉法人 からし種の会

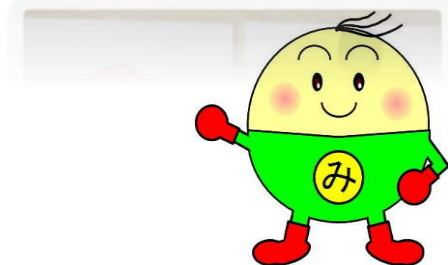
住所: 長野県佐久市八幡字向原1115-67

対象: 知的障がい者

定員: 施設入所支援 50 名

生活介護 55 名

短期入所 2 名



1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
見守り 支援機器	眠りSCAN	25	・居室内の利用者の状態(覚醒・起き上がり・離床・呼吸・心拍)を遠隔で把握できるため。 ・ビューアーが見やすいため。
	眠りSCAN eye	3	・眠りSCANと連動し、検知した利用者の状態を映像で確認できるため。
	A.I.Viewlife	2	・利用者の多様な行動を検知、通知することができるため。 ・映像をシルエット化することで、プライバシーへの配慮が可能であるため。
移乗 支援機器	マッスルスーツ Every	2	・利用者を支える場面での転倒防止や職員の不安定な姿勢による腰痛を防止するため。
排泄 支援機器	ラップホン・エール2	2	・歩行が不安定な利用者の排泄支援時の誘導距離や誘導時間を短縮するため。 ・排泄後の臭いを防止し、後処理に要する手間を簡易化するため。

2 実施体制

- ・以下のメンバーにより、プロジェクトチームを設置。
- ・リーダー；施設長
- ・メンバー；次長 主任 リーダー 看護師

3 課題整理

- ・利用者の状況を適切に把握できず、特に支援員が少ない夜間帯等に支援場面が重なると、障害特性や優先度に応じた支援が行き届かず事故等につながることもある。
- ・利用者を介助する際、利用者を支えきれずに転倒したり、不安定な姿勢による腰痛の慢性化など、支援員の身体的負担が増加している。
- ・定時のトイレ誘導は、睡眠状況によって利用者及び職員の負担や転倒リスクに課題がある。また、ポータブルトイレの活用は、排泄後の臭いと後始末に時間を要している。

4 導入効果

- ・利用者の状況がビューアーの一覧によって確認可能となり、予め設定した通知に基づいて訪室することで転倒事故防止と優先度に応じた支援が可能になった。
- ・排泄支援の移動時間及び後始末を含めた所要時間が短縮し、支援業務の効率化と身体的負担の軽減が図られた。

5 機器導入後の課題と解決策

- ・見守りカメラの設置については、プライバシーへの配慮と利用者やそのご家族等から理解を得る必要がある。そこで、ご家族等に対し、使用方法や目的について説明を行い、定期的に情報共有をするとともに、ICT機器運用規程を策定して、適切な運用を図る。
- ・移乗支援機器は、着脱の手間等の問題で活用が進んでいない。そこで、必ず使用する支援場面を設定するなど、徐々に機器の良さを実感し、活用場面を広げていく。
- ・排泄支援機器を使用する場合は、利用者の自立した生活を原則としつつも、日常生活上のメリットを勘案して、保護者・ご家族と職員で話し合っ効果的な運用を図る。